



Part 1. 問題解決の枠組みを拡げる

解題

「鳥獣害を超える」ための視座の転換 ～なぜ必要か／どのように実現できるか～

特定非営利活動法人里地里山問題研究所



代表理事 鈴木克哉



自己紹介（大学・県 → 市・民間）

- 出身：和歌山県
- 北海道大学大学院文学研究科修了 博士（文学）
- 青森県下北半島のニホンザル農作物被害問題の研究
 - 被害を引き起こすサルの生態調査
 - 住民意識・行動の調査
- 2005.4～2007.12 京都大学霊長類研究所 教務補佐員
- 2008.1～2015.3 兵庫県立大/兵庫県森林動物研究センター
（兼務） 講師/研究員
- 2015.4～2021.3 丹波篠山市森づくり課
獣害に強い集落づくり支援員（非常勤嘱託職員）
- 2015.5～ 特定非営利活動 法人里地里山問題研究所 代表理事
- 2019.5～ 一般社団法人ニホンザル管理協会 理事

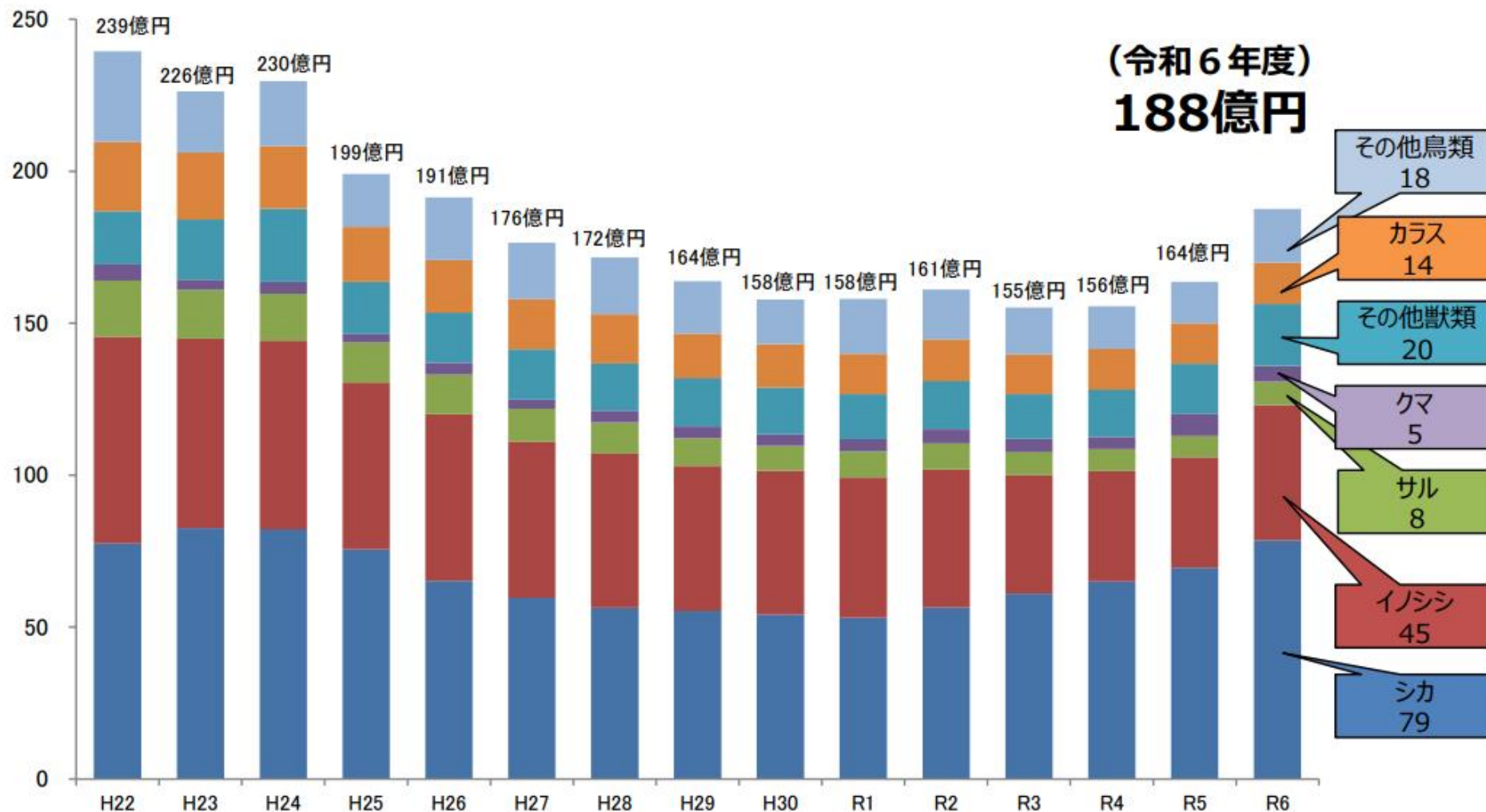




野生鳥獣による農作物被害（全国）

農作物被害額の推移

（億円）



（令和6年度）
188億円

農作物被害



※ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある

【出典】「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について」（農林水産省）



なぜ、鳥獣害は解決しないのか？

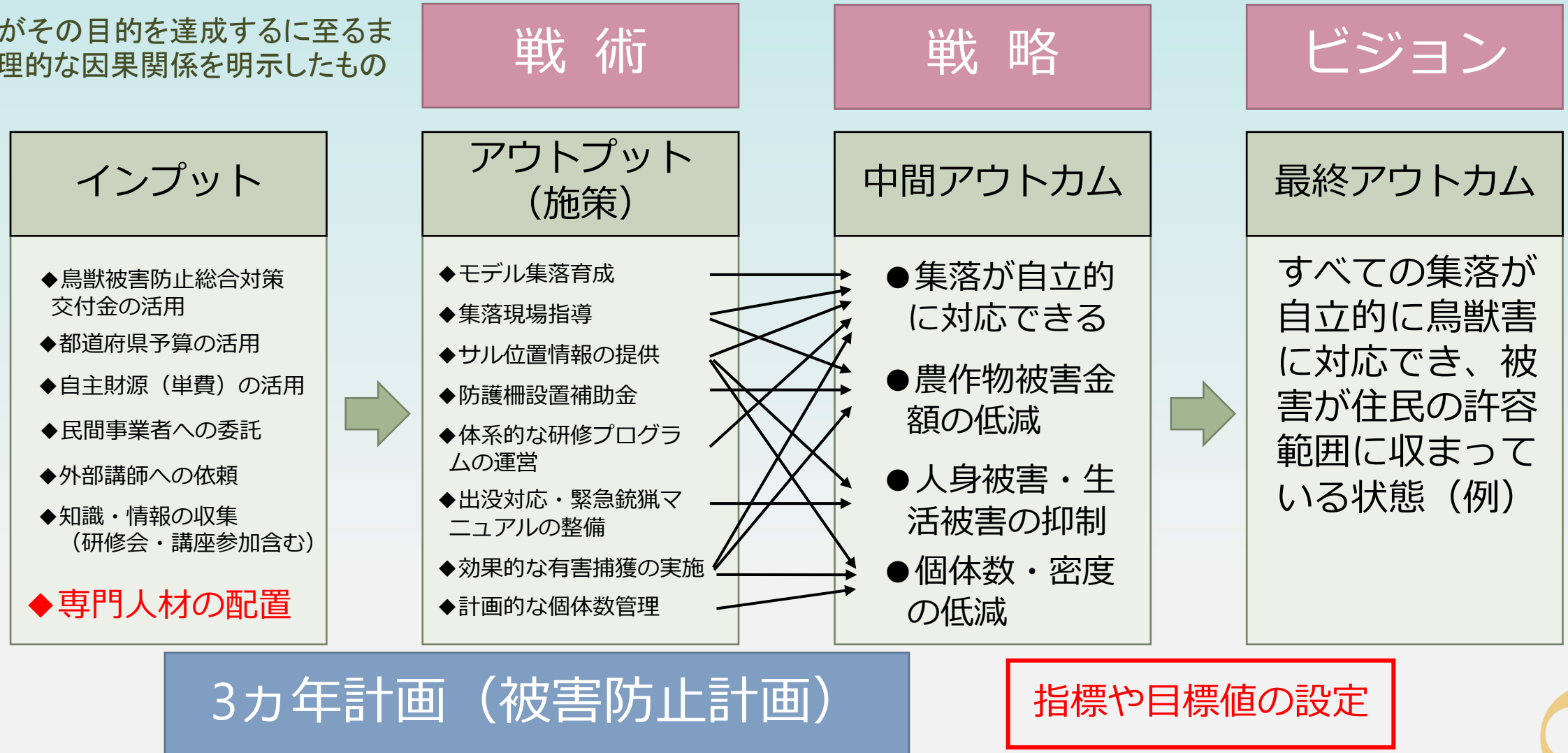
1. 自治体にビジョン・戦略・対応体制が不足している（専門人材の不足？）
2. 現状の問題解決のビジョンに限界がある





(例えば) 市町村の獣害対策の推進を ロジックモデル※で考えると

※施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したもの





自治体に不足しているのは…

「捕獲」「現場対応」等、様々なスケールで「専門人材」の需要が拡大しているが、

「ビジョン・戦略・戦術」がない状態

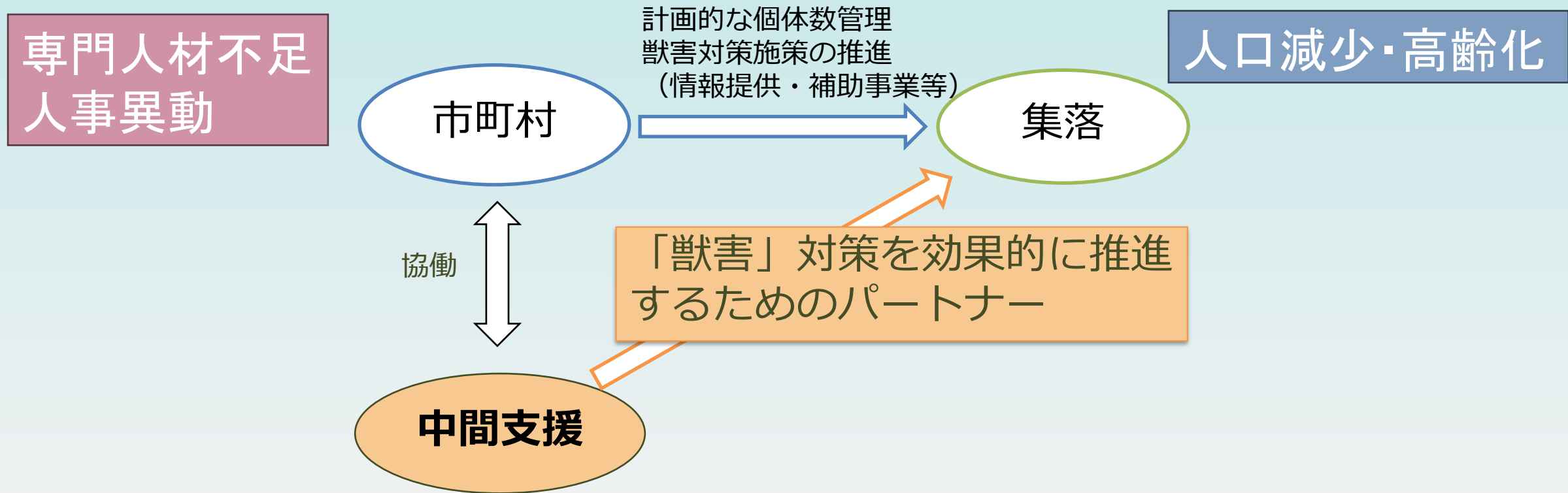
※行政が策定しなければならないことではあるが、さらに高度な専門性・豊富な実務経験が求められる

（最低でも10年以上のキャリアが必要？）





豊富な実務経験を持つ民間・専門家の支援が必要



市町村の計画策定や実務を伴走的に支援するパートナー
(高度な専門性・実務経験を有した人材・民間企業・団体) の役割





なぜ、鳥獣害は解決しないのか？

1. 自治体にビジョン・戦略・対応体制が不足している
2. 現状の問題解決のビジョンに限界がある





農村が直面する課題



高齢化・人口減少
担い手不足



獣害の深刻化
(全国で**164**億円の被害)





農村が直面する課題

農地・景観の荒廃
伝統文化の消失

獣害の激化

魅力的な仕事がない
若者の地域離れ

悪循環

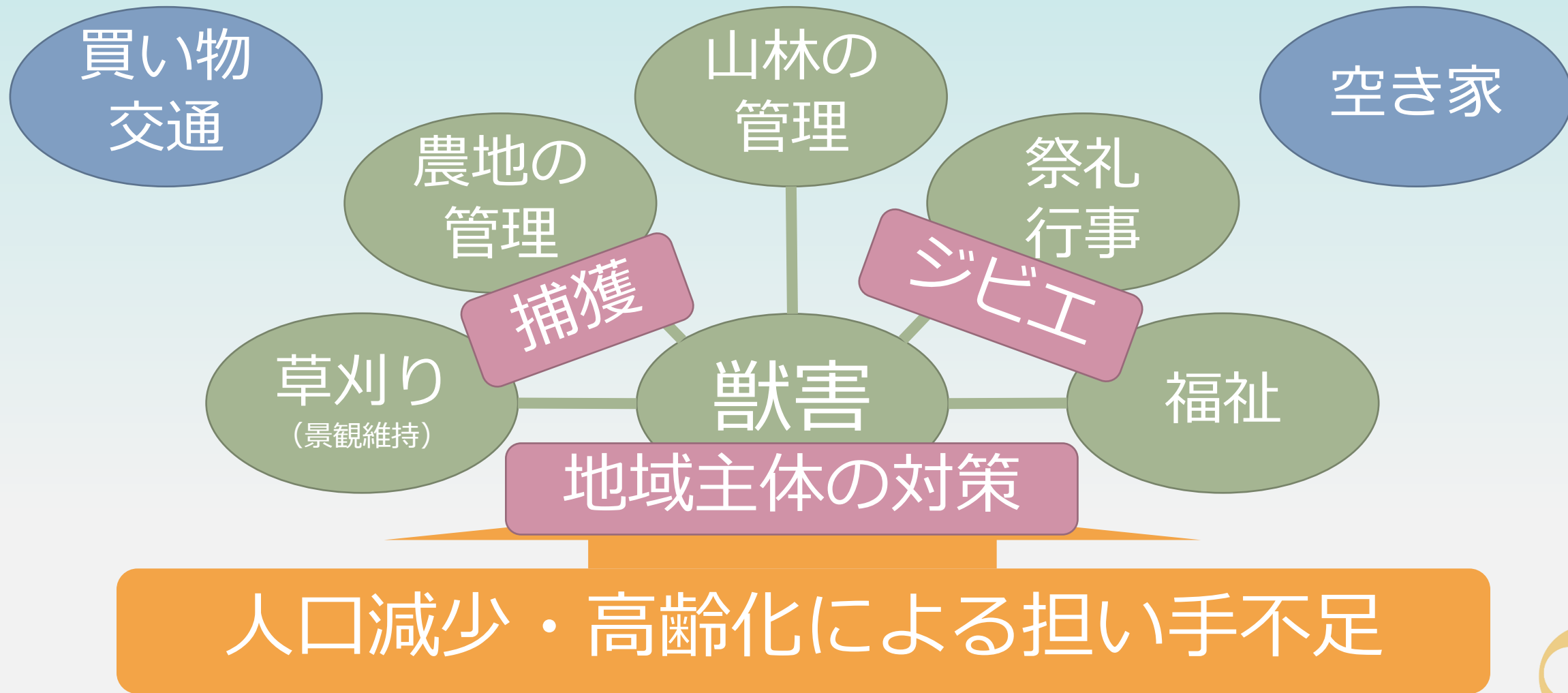
担い手不足・耕作放棄地の増加

将来展望が
もてない





地域は多課題を抱えている





獣害解決のビジョンを捉えなおす

獣害対策 = ~~目的~~
手段

問題解決の枠組みを拡げる
「鳥獣害を超える」



ここからは少し

丹波篠山市でのさともんの 取り組み紹介





さともんの設立（2015年）

兵庫県丹波篠山市を拠点

- ①人口減少・高齢化する農村の獣害対策の支援
- ②都市部人材・地域内人材など新たな担い手を育成し、頑張っている地域の獣害対策の支援を通じて、農村に存在する豊かな「里の恵み（里もん）」をさまざまな人で共に守り、わかちあい、継承するネットワークづくりを行います。



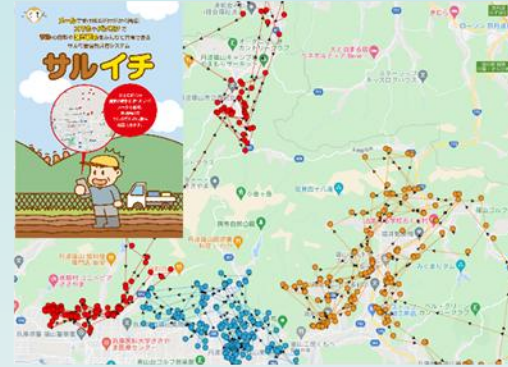


地域主体の獣害対策支援業務

獣害対策指導・コンサルティング

他自治体等の獣害対策支援業務

- < 支援先 > 京都府、京都府福知山市、綾部市
島根県川本町、岡山県高梁市、
兵庫県新温泉町、加東市、大分県、
国立療養所邑久光明園 等 多数実績有
- < 支援内容 > 集落主体の獣害対策モデルづくり、ICT
を活用した獣害対策、ニホンザル管理計
画策定、野生動物生息実態調査、獣が
い対策推進計画の策定支援 等
- < 支援年 > 2015年～





さともんの解決策：負→正の循環を創る



様々な外部人材
(関係人口)
の力を活用

獣害の**減少**

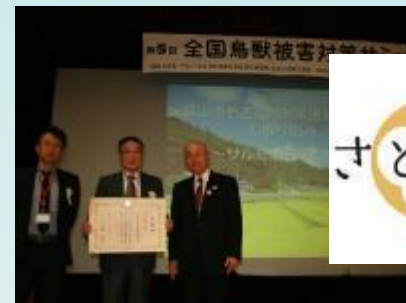
好循環
(獣がい対策)

**後継者・新
規就農者増**

将来展望
経済活性化

豊かな農村の
資源を活かす

農水省全国鳥獣対策優良活動表彰
「農林水産大臣賞」



平成29年度
篠山市有害鳥獣対策推進
協議会



令和5年度
福知山市川合地域農場づ
くり協議会





様々な農村体験の機会を通じて





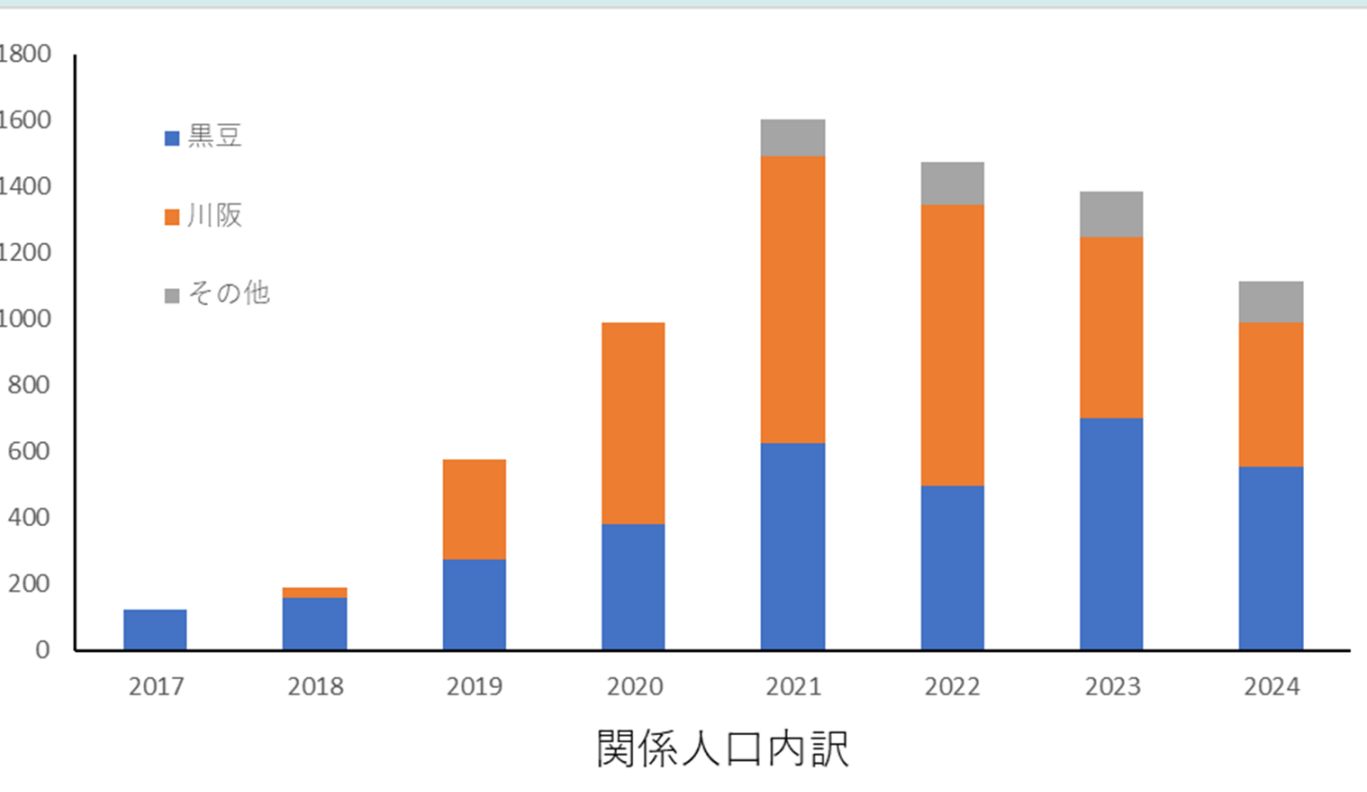
農村課題に触れる・協力する関係性づくり





これまでの実績：関係人口の創出・拡大

総数7,455人（延べ）



主な活動

- ・農業・農村体験
- ・獣害対策支援
- ・草刈り・耕作放棄地の再生
- ・地域の祭り支援
- ・企画・アイデア提供

地域に対する理解・共感を高め・広げてきた



小～高校生、企業等多様な人材参画を促す

第4回
獣がいフォーラム

**スイカを
動物たちから守ろう！**

簡単な対策で**獣害ゼロ！**
収穫できたスイカは
7個→約50個に！！

丹波篠山市立大山小学校 6年生

かき茶ロール

篠山東雲高校3年 長澤碧唯

地域の問題解決に
貢献できる
パティシエになりたい！

第4回
獣がいフォーラム

農作物を守るだけでなく
地域を良くし、
関わる人を成長させる
獣がい対策

丹波篠山の若者が
獣がい対策を
通じて考えたこと

第4回
獣がいフォーラム

京都府立大学1年
藤木健太

**丹波篠山
ロータリークラブ**と
獣がい対策実践塾

獣害から守り伝えていきたい
丹波篠山の魅力を発見・体験

第4回
獣がいフォーラム

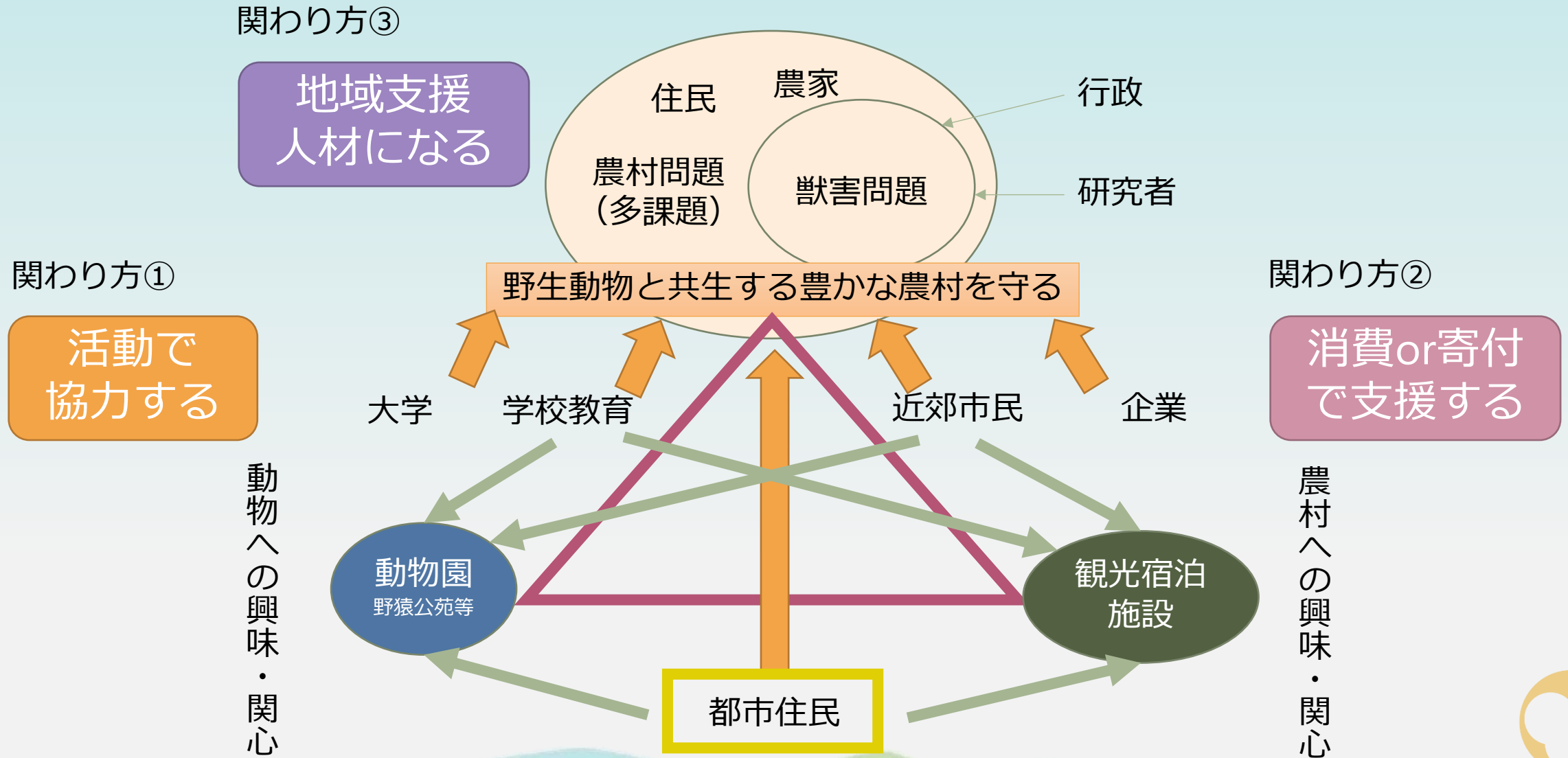


過去のフォーラム
の様子YouTubeで
配信中
(さともんで検索)





これから展開していくこと





丹波篠山市 獣がい対策支援員

任期：2024～25年度（2年間）

獣がい対策のモデルづくり（小学校区単位）

① 西紀北地区 草間大和さん

② 畑地区 木下麗子さん

業務内容（さともんがコーディネート）

1. 活動エリアにおける鳥獣被害や被害対策の実態調査
2. 調査結果を踏まえた活動エリアにおける自立的な鳥獣被害対策にむけた計画策定
3. 策定した計画に基づく事業を実践するためのコーディネート
4. 担当する活動エリアで既に取り組まれている事業の実施と改善

Copyright © Katsuya Suzuki 2026

農林水産大臣賞

農林水産大臣賞

みたけの里づくり協議会

所在地：兵庫県丹波篠山市
代表：山内一郎

- 丹波篠山市畑地区の10集落で構成された住民主体の協議会。
- サルによる被害が顕著であったことから、県や市役所等の行政機関と連携して、柵の設置や維持管理、追い払い、環境整備、放任果樹対策など多様な対策を実施。近年は、シカ・イノシシ被害対策にも地域一体となって取り組む。
- 地域内外の大学・高校・NPO法人等とも連携し、獣害対策×交流×学びを組み合わせて、多様な人材とともに、地域活性化を目指す「獣がい対策」を推進。
- 集落間及び関係機関・団体との連携を促進するため、複数集落を束ねる調整役として「獣がい対策支援員」を配置。

【主な取組】

- 放任果樹対策
サルの出没を防ぐため、柿の収穫イベント「さく×はた合戦」を開催し、地域外人材の協力の下、早期収穫を実施。高齢化で不足する作業力を補完するとともに、地域交流を重視した“楽しく継続できる場”として、関係人口創出のきっかけとしている。併せて、市内の高校との連携により、収穫した柿を活用した加工品の開発・販売を実施。
- サルの追い払い活動
専門家の支援の下、地域で効果的な追い払いをするための学習会等を開催するとともに、サル位置情報共有システムを活用し、住民主体の追い払いを効率化。
さらに、各集落から1-2名の隊員を選抜して「みたけサル追い払い隊」を結成し、位置を把握しながら行う機動的な追い払いと、メッセージアプリによる集落間での情報共有により、実効性の高い運用体制を構築。
- 集落柵の維持管理
「さく×はた合戦」と称して、シカ・イノシシ対策の金網柵（集落柵）の点検日を含わせて集落間共同で実施。地域外人材の参加や、他集落の柵点検・補修の工夫を互いに学び合い、情報共有や意識喚起を図ることで、集落柵の効果向上。
- 集落主体の捕獲活動
シカ・イノシシの対策として、ICT大型捕獲罠を用いて捕獲における餌付け方法や野生動物の行動等を「見える化」することで住民の捕獲技術・意欲を向上。有害捕獲にあたる実施隊員数に限りがある中、集落が捕獲者と連携することで、設置・稼働できる箱わな数を増やし、捕獲数増加と効率的な被害軽減を実現。



さく×はた合戦の様子



さく×はた合戦の様子



みたけサル追い払い隊

【活動の成果】

農作物被害金額（畑地区） 1,732千円（H28）→ 33千円（R6）



丹波篠山市「獣がいの対策推進計画」

『このままでは誰も農業をやらなくなってしまう…』

新しい「獣がいの対策」とは

獣害が深刻化し、人口減少・高齢化も進行していく日本の農村。今、最前線で獣害に立ち向かっている地域をみんなで支えなければ、次世代に継承したい豊かな「里のめぐみ」や自然と調和した人の暮らしが失われてしまいます。

そこで、丹波篠山市では、鳥獣害問題への新たな対応として、多様な人材参画によって地域を元気にする前向きな「獣がいの対策」を推進しています。①～④のステップで、マイナス課題である「獣害」を資源に変えて、地域を活性化していく新しい「獣がいの対策」のモデルを丹波篠山で作り、全国に発信していきます！



自らの手で獣害を克服し、自立的に対応できる集落を増やしていきます。



獣害対策をきっかけに住民の生きがい・やりがい・笑顔を生み、元気ある集落を増やしていきます。



獣害から守った農作物を購入して、地域を支援する「応援消費」のしくみづくりを行います。



「獣がいの対策」を通じて守り伝えたい丹波篠山の魅力を発信します。



獣がいの対策を共にすすめる「関係人口」の創出・拡大

人口減少・高齢化が進行する農村では「担い手不足」が深刻な課題となっています。そこで、獣害対策の支援をきっかけに、特定地域への愛着や関わりを深めながら地域課題の解決や活性化に多様な形で関わり貢献する「関係人口」の創出・拡大を目指します。これらの関係人口は地域の「獣がいの対策」の推進だけでなく、他の課題の解消にも寄与します。丹波篠山市の獣がいの対策の推進のために、地域外の皆さまの存在が不可欠です。



獣がいの対策実践塾



2018 年度から毎年、高校生や都市住民・住宅地住民、企業など、これまで「獣害」問題と直接関わりがない人材を対象に、獣害や農村課題について現場実習を通して学び、自分たちができることを考えていく連続講座を開催しています。



獣がいのフォーラムの開催

2018 年度から毎年、丹波篠山市内の獣がいの対策の取組を報告する「獣がいのフォーラム」を開催しています。市内だけでなく全国から多くの方に参加いただき、みんなで多様な人材参画による地域を元気にする獣がいの対策の可能性について、情報共有や議論をしています。



丹波篠山市×さともん 包括的連携協定締結（2022.3）





「鳥獣害の枠を超えた」新たなビジョンと戦略が必要

戦術

戦略

ビジョン

インプット

- ◆鳥獣被害防止総合対策交付金の活用
- ◆都道府県予算の活用
- ◆自主財源（単費）の活用
- ◆民間事業者への委託
- ◆外部講師への依頼
- ◆知識・情報の収集（研修会・講座参加含む）

◆専門人材の配置

アウトプット（施策）

- ◆モデル集落育成
- ◆集落現場指導
- ◆サル位置情報の提供
- ◆防護柵設置補助金
- ◆体系的な研修プログラムの運営
- ◆出没対応・緊急銃猟マニュアルの整備
- ◆効果的な有害捕獲の実施
- ◆計画的な個体数管理

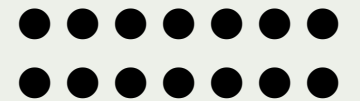
初期アウトカム

- 集落が自立的に対応できる
- 農作物被害金額の低減
- 人身被害・生活被害の抑制
- 個体数・密度の低減

中間アウトカム

集落が自立的に鳥獣害に対応でき、被害が住民の許容範囲に収まっている状態

最終アウトカム



キーワード
持続可能な農村、
農地の維持、野生
動物との共生する
まちづくり、生物
多様性、関係人口





Part 1. ～問題解決の枠組みを拡げる

第2部

13:00～17:00

鳥獣被害対策の事例講演・パネルディスカッション

① 解題【13:00～13:20】

鳥獣害を超えるための視座の転換～なぜ必要か／どのように実現できるか～

講演者 特定非営利活動法人 里地里山問題研究所／鈴木 克哉 氏

② 取組事例紹介【13:20～14:20】

鳥獣被害対策の本丸～鳥獣との闘いから過疎・人口減少の波との闘い～

講演者 島根県美郷町役場 美郷バレー課／安田 亮 氏

地域創造的アプローチによる鳥獣害対策 ～神奈川県大磯町の取り組み～

講演者 神奈川県大磯町 産業観光課／弘重 稔 氏

野生鳥獣被害対策において目指すべき方向性とは～野生鳥獣と地域社会との共生関係の再構築に向けて～

講演者 株式会社日本総合研究所／大島 裕司 氏

（休憩10分）

② パネルディスカッション【14:30～16:00】

コーディネーター 特定非営利活動法人 里地里山問題研究所／鈴木 克哉 氏

解題

Part 1. 問題解決の枠組みを拡げる

「鳥獣害を超える」ための視座の転換

～なぜ必要か／どのように実現できるか～



ご清聴ありがとうございました

